

一般演題 VII

甲状腺, 副甲状腺 (83~87)

83. 慢性甲状腺炎 核医学的検査と

免疫学的検査

横浜市立大学 放射線科

小野 慈 伊東 乙正 菅原 正敏

朝倉 浩一 早野 育男 松井 謙吾

研究目的：慢性甲状腺炎は甲状腺腫瘍性疾患のうち最も癌に誤認されやすい疾患の1つである。すでに第7回核医学会において、主としてシンチグラムを分析することにより、本疾患の特徴をまとめたが、最近になって、本疾患の免疫学的検査法が通常検査となったので、核医学の特徴と免疫学的検査との結果を比較検討する。

研究方法：核医学的検査を行なった甲状腺疾患のうち、慢性甲状腺炎と診断した26例（男性2，女性24，20~29才5，30~39才4，40~49才5，50~59才6，60才以上6例）に免疫学的検査（サイロイドテスト）を行なった。

研究結果：① ^{131}I 甲状腺摂取率試験（24時間値）40%以上3例，10~40% 15例，10%以下8例。② トリオソルブテスト40%以上3例，25~39%15例，24%以下5例。③ サイロキシン定量， $13\mu\text{g/dl}$ 以上3， $7.5\sim13\mu\text{g/dl}$ 9， $7.5\mu\text{g/dl}$ 以下2。④ シンチグラム：腫大像19例，正常大6，正常より小さいもの1例，変形像24例，変形のないもの2例。両葉が対称的である像5例，非対称的である像21例。菲薄像21例。触診上の腫瘍の所見とシンチグラムの像の所見と一致するもの1例，一致しないもの21例，不明であるもの4例。⑤ サイロイドテスト-3例，+23例（ 10^3 ， $4\cdot10^3$ ， $4\cdot10^4$ ， $2\cdot10^5$ ， $2\cdot10^6$ ，11例）。

研究の考按および討論：核医学的検査法で特徴的なのはシンチグラム像であり特に腫瘍性疾患の鑑別に信頼度が高い。その特徴は，非対称的腫大像（菲薄像を伴う）で触診所見と一致しないことである。触診上の腫瘍の位置に欠損像のない場合が多く，しかも腫瘍の位置はhotでない。オートグラムでみると，病巣の中の小さな胞にも集積がみとめられ，腫瘍すなわち欠損でない現象を理解する参考になっている。更に免疫検査の陽性率は高く，現在は病理学的検査にて確定する例も少なくしている。慢性甲状腺炎の診断には核医学的検査法と併せ免疫検査も重要な意義を持つものと考えられる。

84. Basedow 病の ^{131}I 治療における治療時

実際線量と治療経過および効果について

放射線医学総合研究所 土屋 武彦

伊藤病院

伊藤 国彦 百溪 尚子 西川 義彦

井野 英治 原田 種一 高松 節子

鈴木 琢弥

バセドウ病の ^{131}I 治療にさいして，治療時に実際に与えられる照射線量は，測定時の期待線量と必ずしも一致しない。したがってわれわれは治療効果を判定する上には，治療時の実際線量を問題にすべきであることを主張してきた。今回は昭和37年以降に ^{131}I 治療を施行したバセドウ病の中で，治療時の実際線量を測定した約1500例について，照射線量と治療経過および効果について検討した。現時点で判明している40年までの治療約500例について，判定時の甲状腺機能状態をみると次のような結果がえられた。すなわち6カ月以上，7年までの全体の症例について集計すると，Hyperthyroid 23%，Euthyroid 68%，Hypothyroid 6%であった。この中でたまたま3年目に診断した症例のみにについてみると，Hyper. 14%，Eu. 78%，Hypo. 8%であった。これら3群のそれぞれの治療時の実際線量は，いずれも8,000~9,000 rad で，各群の間に有意の差はなかった。また各群における線量の最高値と最低値をみると，Hyper. では16,000~2,000 rad，Eu. では17,000~1,200 rad，Hypo. では13,000~4,000 rad. であった。すなわち治療効果と照射線量とは明らかな相関がみられなかった。したがってとくに治療効果が不十分で Hyperthyroid にとどまっているもの，および効果的には Hyperthyroid に陥ってしまった症例をとり上げて，このような結果に至ったと考えられる要因について検討を加えてみた。またこれらの症例の治療後の経過を分析した。その結果，効果が不十分で不完全治癒の状態にあるものは，次第に再び Hypothyroid が増強して抗甲状腺剤治療の追加によっても中々治癒がえられないこと，また Euthyroid のものは比較的安定した状態が維持されること，一方 Hypothyroid には比較的早期から陥るものが多いことが分った。

以上のような問題点について，さらに症例をまして検討をすすめている。